経済やわらかゼミ

楽天、第4の携帯会社に

自前で基地局や回線網

証券会社に勤める美咲さん。楽天が第4の携帯電話会社を目指すと新聞記事で読み、IT業界で働く友人の佳奈さんに楽天の狙いなどを聞いた。

美咲　楽天が第4の携帯会社になるってどういうこと？

佳奈　NTTドコモ、KDDI（au）、ソフトバンクの大手3社のように自前の基地局や回線網を持つ携帯会社を目指すの。総務省の認定を受けて2019年にサービスを開始する計画よ。

美咲　第4って言うけど、携帯会社はもっとたくさんあるじゃない。

佳奈　うん。例えば大手スーパーのイオンが「イオンモバイル」のブランドでやっているわよね。イオンもそうだけど、ああいう格安スマートフォン会社は大手から回線を借りているの。設備投資がいらないんで安い料金プランを提供できるのよ。楽天も格安スマホには参入済みなんだけど、今回は自前で設備を持つところが違うの。

美咲　自前で持つとどんなメリットがあるの。

佳奈　楽天には仮想商店街「楽天市場」や旅行予約サイト「楽天トラベル」といったインターネットサービスの会員が9千万人以上、クレジットカード会員も約1500万人いるんだって。この会員たちに楽天のスマホを売り込みたいんだけど、回線を借りている立場だと制約が多くてサービスの幅を広げるのが難しいようなの。自前の設備を持てばやれることが増えるんでしょうね。

美咲　大手3社との競争で勝算はあるの。

佳奈　楽天をあそこまで育てた三木谷浩史会長兼社長は自信満々よ。でも設備投資額が最大6千億円というんで負担が重すぎると心配する声もけっこうあるわ。携帯市場は大手3社の寡占状態で、格安スマホも一時の勢いはないしね。楽天もよほどの秘策がないと難しいんじゃないかしら。

美咲　楽天はどんなスマホを売り出すの。

佳奈　まだ分からないけど、焦点は米アップルの「iPhone（アイフォーン）」が扱えるかどうかね。アップルは今のところ、日本では販売力の強い大手3社しか最新機種の取り扱いを許していなくて、楽天がアイフォーンを売れないとなると厳しいと思うわ。

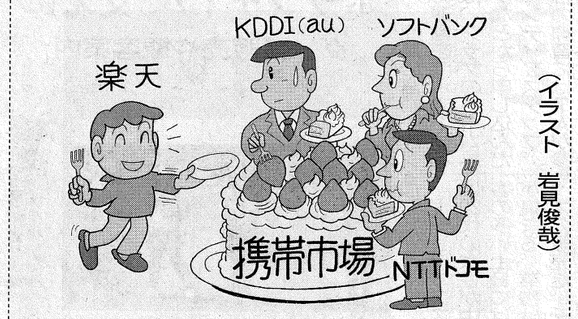
美咲　料金は。

佳奈　そこもまだ分からないわ。でも楽天が大胆な料金プランを打ち出せば、他社も競って料金を下げてくるだろうから、全体的に下がる可能性はあるわね。

美咲　いいわねえ。それならまた携帯会社、変えなくちゃ。

佳奈　あなた、よく変えるわねえ。これだから携帯会社も大変だわ。

美咲　何言ってるの、消費者は厳しいのよ。



（イラスト　岩見俊哉）

モノ語り　茨城の創造力〈97〉

色柄判別システム

微妙な違い　高精度に判別

ニシテック（ひたちなか市）

日立製作所OBの西川社長の父慧さんが個人で営業を始めた「ニシテック日立」が前身。生産設備の機械加工部品の納入を手始めに事業を拡大し、2002年に法人化。大手保険会社に勤務していた西川社長もUターンし、慧さんを支えた。

取引先は大手中心だが、「下請けには限界がある。うちにしかできないものを一つでも多く積み上げていきたい」（西川社長）と新事業への挑戦を決めた。

多様な部材を取り扱う建築業界では、似たような木目や色合いの商品を選択する場合、間違って取り扱う人的ミスが発生しており、従来の画像処理システムでは、微妙な色彩の違いや柄の違いまで識別できないなどの課題があった。こうした課題解決に向けて、埼玉工業大や県内外のソフトウエア開発会社と連携し、これまでになかった新システム開発に乗り出した。

■　■

2年かけて完成させたシステムは、顧客ニーズの洗い出しや細部の調整を行った上で、今年夏の市販化を予定している。建材メーカーを中心に提案していく方針だが、工業用の各種フィルムや医療用カテーテルなどにも応用が可能という。

「多分野での展開や、自社の海外ネットワークを活用した輸出も視野に入れている」と西川社長。ものづくりで培った技術で新境地を切り開いていく。（第4火曜掲載）

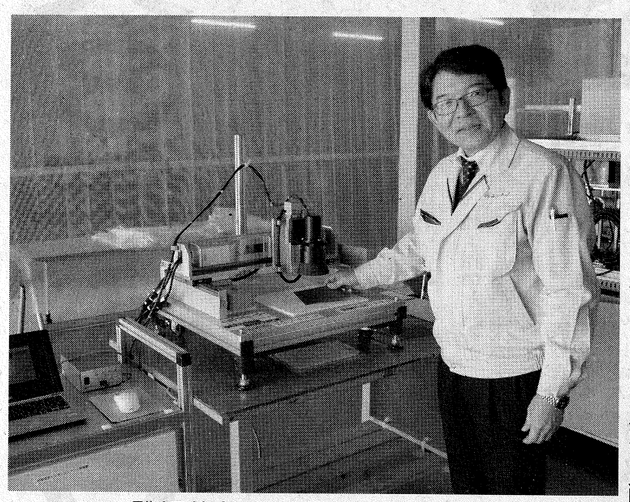
▽本社　ひたちなか市高場
▽設立　2002年2月
▽資本金　300万円
▽従業員　18人
▽メモ　さまざまな画像処理の装置開発に力を入れていく方針。

「既存のセンサーやカメラでは判別できなかった部品や材料の微妙な色柄の違いも高精度に判別できるシステム」。ニシテックの西川智潮社長(52)は、新開発の「色柄判別システム」の特徴をこう強調する。

発光ダイオード（LED）ライトと工業用カメラを一体化させた特殊な自社開発のカメラで、素材の表面のパターンや色合いを複数撮影し、独自のアルゴリズムを用いた解析ソフトにより自動で分析・識別できる。ワンタッチ操作で、数秒で判別できる。

現在、県工業技術センターで実証試験を行っている。西川社長は「90％台後半から100％の高精度を誇る。視覚や経験などに頼ってきた製品検査の自動化や組み立てミスの防止に効果を発揮できる」と胸を張る。

■　■


「製品検査の自動化や組み立てミス防止に役立つシステム」と話すニシテックの西川智潮社長＝ひたちなか市高場

環境・新エネ開発技術紹介

茨城町で展示会

いばらき成長産業振興協議会（宮田武雄会長）環境・新エネルギー研究会の技術展示会が23日、茨城町長岡の県工業技術センターで開かれる。同研究会の17社のほか、「循環型社会を目指すつくばフォーラム」の10社が共同出展し、新製品や開発技術を紹介する。

同研究会は、風力発電品製造やメンテナンス、再資源化分野への進出に取り組んでいる。業による製品・技術紹介は、第1部が午前10時半、第2部が午後2時半。

光で血糖値変化測定

桐生電子開発

電子機器の設計開発を手掛ける桐生電子開発（群馬県桐生市）は、採血せずに光で血糖値の変化を計測する「体内糖バランス計」の開発を進めている。食事前後に手軽に測定できる健康家電として2019年度中の商品化を目指す。

食事前後の血糖値の上昇と下降の変化量を「体内糖バランス」として測定する。測定機器は指の間や耳たぶを挟んで使用するタイプで、長さ8センチ、重さ50グラムを予定している。従来の測定は採血に伴う痛みや衛生管理が課題だった。光で物質の状態を測定・分析する「光センシング」技術を応用することで、採血なしの手軽な測定を可能にした。

同社によると、食事後いったん上昇した血糖値は2時間程度で元に戻るが、体内糖バランスが悪くなるとほとんど戻らない。

測定機器は食事後30分後、同2時間としてもらい、数値を青（糖バランス

北関東トピックス

生産体制の強化図る

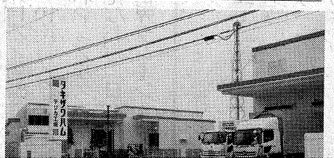
滝沢ハム　工場新設

滝沢ハム（栃木県栃木市）は、需要が高まるローストビーフと生ハムの生産体制強化を図っている。ローストビーフ・ポークの工場を同市内に新設し、生ハムの製造ラインを増設した。ローストビーフは2019年度に、16年度比で2倍超の売り上げを目指す。

同社によると、生ハムは国内消費が横ばい傾向だが、同社は取引先のプライベートブランド商品の取り扱いが増え、自社ブランド商品も小売店で好評という。中江一雄会長(67)は「さらなる体制の強化を検討している」と明かす。

ローストビーフはここ5～6年、オードブルやレストランのメニューに用いられブームという。伸びは顕著で、12年度の同社ローストビーフ売上高（非公表）に対し16年度は2倍に達した。19年度は12年度の4倍以上の売上高を見込む。

新工場は、設備投資額18億円。別の場所にあったビーフの製造を移し、1カ所に集約。包装工程は先行して月から稼働した。倍増し、人手不足高まるスーパーなどの



情報フォーカス

■県砕石事業協賀会　県砕石事業（長谷川大紋理祝賀会が18日、かれ、さらなる発大井川和彦知事員など約80人が理事長は「関係て適正な価格で い、従業員の賃反映させたい」た＝写真。

■税理士関連交歓会　関東信支部連合会（坂県税理士協同組人理事長）、県同盟（若山実会長同の新春賀詞交